

2024/11/20 (水)
インターネット世界旅行

インターネット世界旅行

モンゴル

後半

参考資料

[大草原の国・モンゴルのおすすめ観光スポット18選！知られざる絶景からユニークなアクティビティまで厳選 | TABI CHANNEL](#)



吉岡 芳夫

ウランバートル郊外のおすすめ観光スポット

[大草原の国・モンゴルのおすすめ観光スポット18選！知られざる絶景からユニークなアクティビティまで厳選 | TABI CHANNEL](#)



首都ウランバートルは広い街です。

中心部から離れた場所にも、ナライハ区・バガノール区・バガハンガイ区という3つの郊外区が存在します。

同じ市内といっても、郊外区に辿りつくまでには何も無い草原地帯を通過しなければなりません。

飛び地のような郊外区にも、想像を超える絶景スポットが存在します。

<ウランバートル郊外のおすすめ観光スポット>

1. チンギスハーン像テーマパーク

2. テルレジ国立公園

<カラコルム周辺のおすすめ観光スポット>

1. エルデネ・ゾー

2. カラコルム博物館

3. ウラーン・ツタガランの滝

4. ブルド

<アルハンガイのおすすめ観光スポット>

ツェツェルレグ

<トゥブのおすすめ観光スポット>

ホスタイ国立公園

<ゴビのおすすめ観光スポット>

1. ホンゴル砂丘

2. バヤンザグ

<フブスグルのおすすめ観光スポット>

フブスグル湖国立公園

チンギスハーン像テーマパーク



チンギス・ハーンはモンゴル最大の英雄、神とまで崇められている人です。

抜群の軍事的才能を持ち、一代にしてユーラシア大陸を横断する大帝國を築きあげました。

社会主義政権下では「侵略者」として宣伝されてきましたが、民主化後に英雄として復活しました

チンギス・ハーンの騎馬像



この像は、高さ40mを誇り、世界最大級の像のひとつです。

像の馬の部分は展望台になっており、雄大なモンゴルの大草原を眺望することができます。

また、台座部分は博物館として利用され、モンゴル帝国時代の貴重な展示物が陳列されています。

ビル3階の高さがある、巨大なブーツのオブジェも必見です。

Chinggis Khaan Statue - Google マップ



[Chinggis Khaan Statue - Google マップ](#)



チンギスハーン像テーマパーク



このパークは、ウランバートル郊外・
チョンジンボルドクの丘に存在します。

東京ドームに換算して46個分という広
大な敷地内には、博物館、レストラン、
キャンプ場などが設置され、チンギ
ス・ハーンを称える巨大なテーマパー
クとなっています。

この場所は、チンギス・ハーンがかつ
て心眼成就の鞭を拾った地とされ、こ
の鞭を手に入れたことにより、彼の快
進撃が始まったと言われています。

現在テーマパーク内には、この逸話に
因んだ4mの鞭のオブジェが飾られてい
ます。

エレデネ村（チンギスハーン銅像と複合施設） - Google
マップ



テルレジ国立公園



ウランバートル中心地から東に70km、車で2時間くらいの位置にある国立公園です。

モンゴルの観光地ランキングで上位に選ばれる人気スポットであるだけに、注目度は高め。

標高1,800m近い高地にあり、その規模は四国がすっぽりに入るほどの広さがあります。

手つかずの大草原が広がり、そこに暮らす遊牧民の生活を尊重しながら公園運営が行われています。

高山植物が咲き誇る溪谷や澄んだ清流もあり、首都から最も近いリゾート地です。

テルレジ国立公園



テルレジ国立公園では、乗馬を楽しんだり、トレッキングやハイキングを満喫したり、様々なアクティビティを体験できます。

ゲルに宿泊して、夜には満点の星空を鑑賞してみるのも楽しいでしょう。

亀石



もうひとつのシンボルである「アリヤバル寺院」は、標高2,000mの山々に囲まれたチベット仏教寺院。

色鮮やかな本堂や、カラフルなマニ車など、異国情緒たっぷりです。

テレルジ国立公園 - Google マップ



アーリアバル仏陀の瞑想と僧院 - Google マップ



アーリアバル仏陀の瞑想と僧院 - Google マップ



カラコルム周辺の おすすめ観光スポット



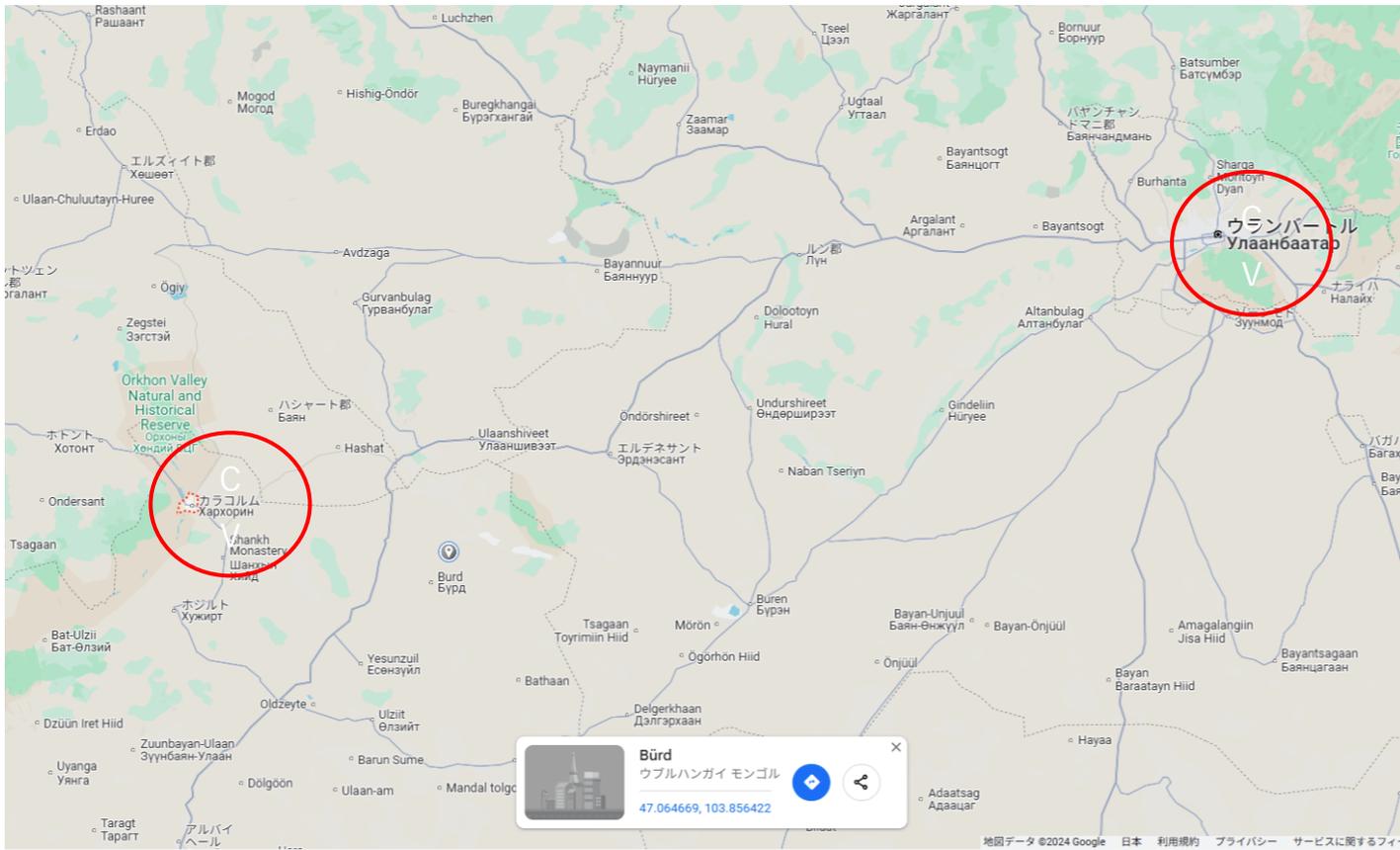
カラコルムとは昔の呼び名で、現在は「ハラホリン」と呼ばれています。

モンゴルの古都であり、ウランバートルから約300km離れた場所にあります。

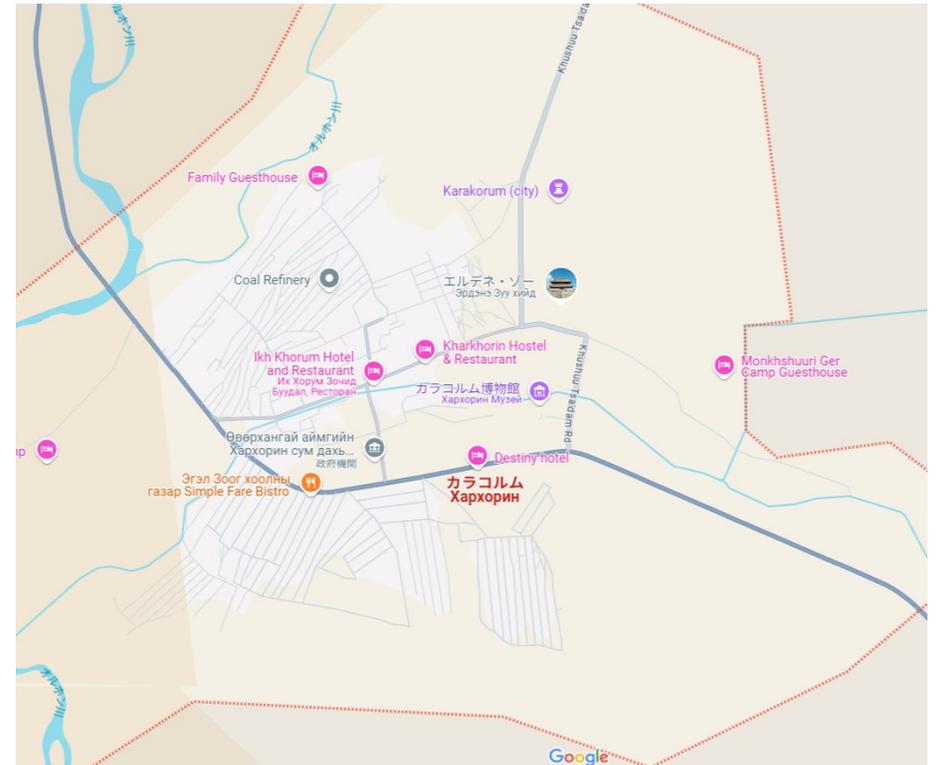
この都市はチンギス・ハーンの息子で、2代皇帝だったオゴタイ・ハーンにより、1235年に首都として定められました。

以降16世紀末までモンゴル帝国（オゴタイ汗国）や北元の首都として繁栄した経歴があります。現在はかつての栄華が感じられませんが、モンゴル有数の観光地として人気を集めています。

カラコルム - Google マップ



カラコルム - Google マップ



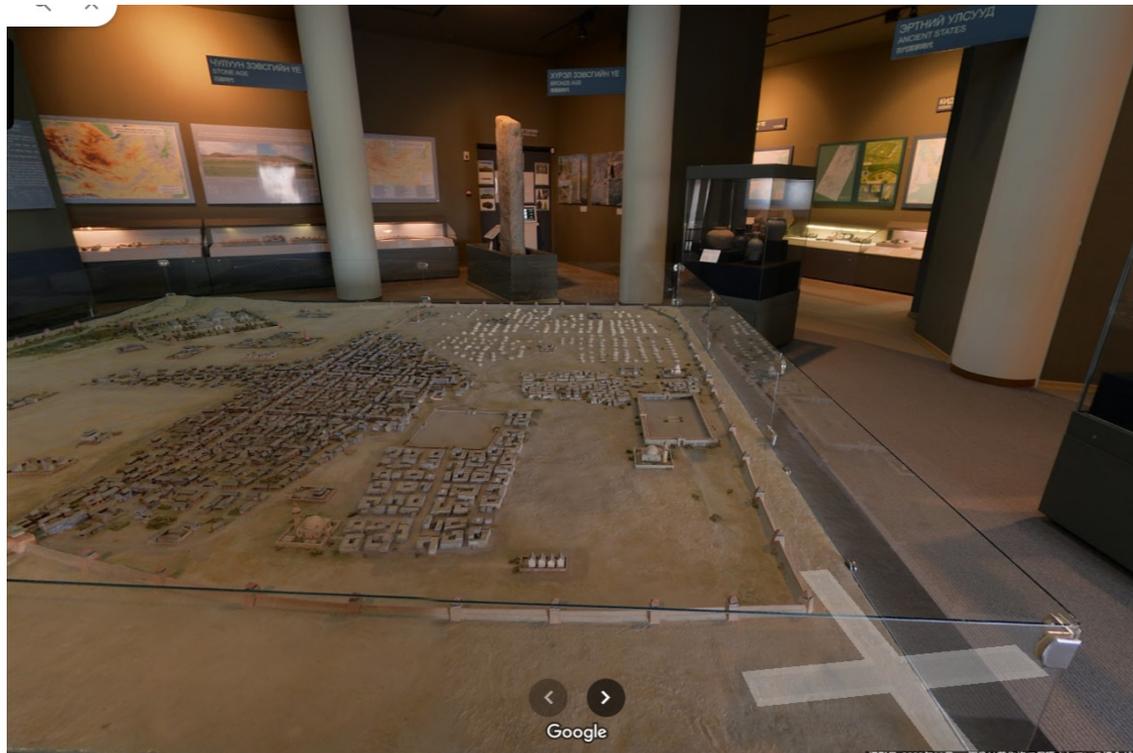
Khushuu Tsaidam Rd - Google マップ



アルハンガイ - Google マップ



Sanj Natsagdorj - Google マップ



カラコルム博物館 - Google マップ



エルデネ・ゾー



モンゴル国内にある最古のチベット仏教寺院とされ、カラコルム観光のハイライトでもあります。

1585年、アブタイ・サイン・ハーンの指示のもと、当時のカラコルム帝国の資材をもって建立されました。

以降も周囲にいくつもの寺院が併設され、繁栄を極めました。

エルデネ・ゾー



この寺院もウランバートルのガンダン寺院と同様、1938年にチョイバルサン独裁政権によって破壊されるという悲劇に見舞われてしまいました。

しかし、重要な建造物は残され、1944年には国家特別遺跡として保護対象に指定されました。

今ではユネスコ世界遺産「オルホン渓谷の文化的景観」の構成要素となっています。

エルデネ・ゾー



大草原の中に佇むエルデネ・ゾーは、四方を420mの城壁で囲まれ、さらに108個の白い仏塔で守られています。

境内にあるひとときわ大きな仏塔・ソボルガン塔は、墮落した僧侶たちを戒めるものとされています。

本堂はチベット仏教建築の質の高さを伝えており、色鮮やかな仏像も必見です。

現在は博物館としての機能を併せ持っています。

エルデネ・ゾー



エルデネ・ゾーは冬期は閉鎖され、中に入ることはできません。

内部見学するのなら、夏の時期に訪問するようにしましょう。

エルデネ・ゾー - Google マップ



Turmandah batsaihan - Google マップ



カラコルム博物館



モンゴル帝国の首都として、当時世界有数の大都市だったカラコルムですが、当時の面影を残す遺物はほとんど残っていません。

そんなカラコルム繁栄の歴史を最も身近に接することができるスポットが、「カラコルム博物館」です。

この博物館では、カラコルム跡から出土した文化財を中心に、遙か以前の突厥（とっけつ）時代やウイグル帝国時代の出土品も展示されています。

展示物を見学しながら、カラコルムやモンゴルの栄光の歴史を習得することができます。

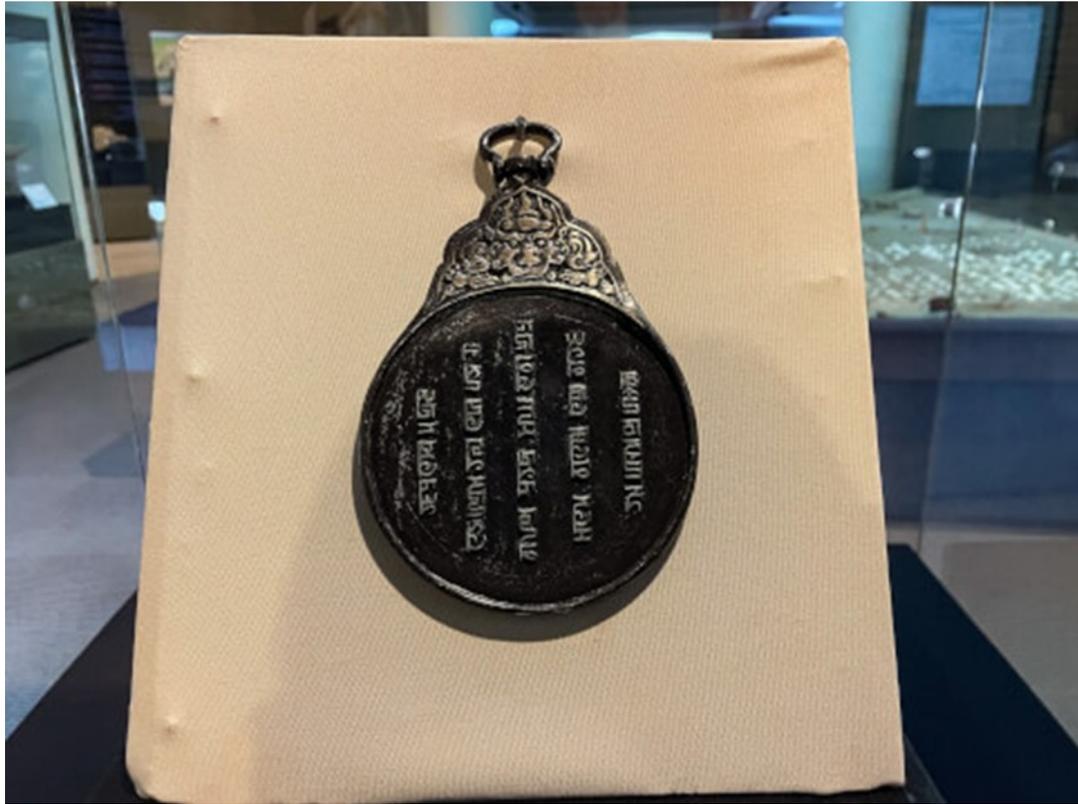
モンゴル帝国時代の首都のジオラマ



展示コーナーの中央に設置された、モンゴル帝国時代の首都の街並みを、忠実に再現したジオラマは必見です。

現在の街の様子からは想像できない、繁栄したカラコルムを知ることができます。

カラコルム博物館



この博物館は、2010年に日本政府の無償援助によって設立しました。また、日本の青年海外協力隊が発掘に協力したこともあり、館内の展示物には日本語の説明も加わっています。

日本人観光客には嬉しい博物館です。

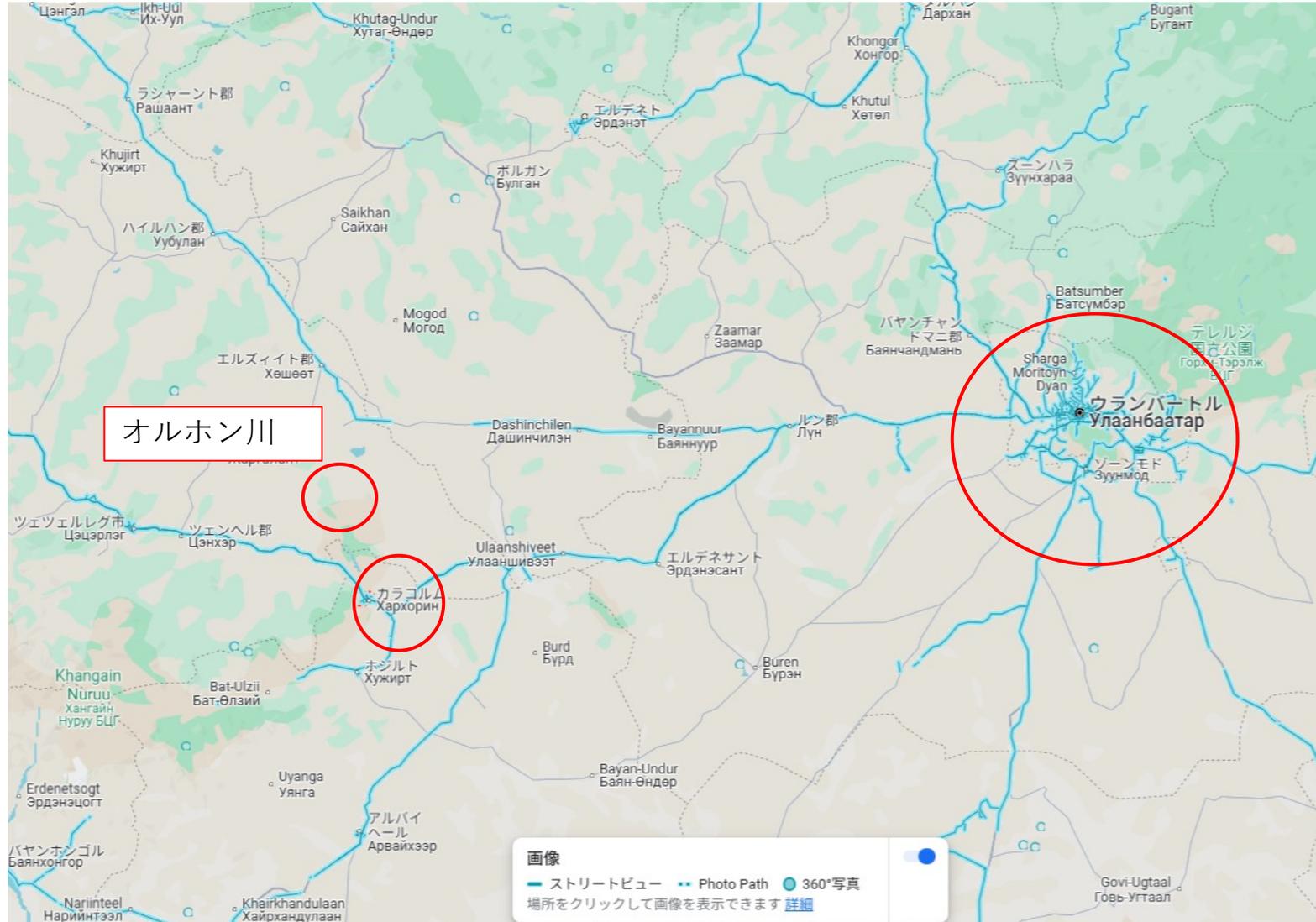
ハラホリン



カラコルムを含むオルホン川流域は、「オルホン渓谷」とよばれる景勝地となっています。

オゴタイ汗国よりも古い時代から拠点として栄え、多くの文化的遺産が残っていることから、ユネスコの世界遺産にも指定されています。

オルホン川 - Google マップ



オルホン川 - Google マップ



ウラン・ツタガランの滝



カラコルム市内を流れるオルホン川は、モンゴルで一番長い川です。

この川の上流に位置する「ウラン・ツタガランの滝」もまた、同国最大の滝として人気の観光スポットになっています。

ウランとはモンゴル語で「赤」、ツタガランは「滝」を意味し、直訳すると「赤い滝」となります。

幅10m、高さ25m、水深20mの堂々とした姿で、圧倒的な迫力があります。

ウラン・ツタガランの滝は、乾期には、消滅してしまうので、雨量の多い7~8月の時期に訪れてみましょう。

草原 ブルド



「カラコルムの玄関口」と称されるブルドは、カラコルムから南東に80kmほど離れた場所にあります。

モンゴルのほぼ真ん中に位置し、「モンゴルのへそ」とも言われています。

ブルドには寺院や博物館などの観光スポットがほとんどありません。

見渡す限りの大草原が広がり、モンゴルらしい雄大な光景が広がっているだけです。

この土地が旅行者を魅了する理由は、どこまでも広い大草原の中でキャンプができることにあります。

Kharkhorin Rd - Google マップ



ツーリスト・キャンプ場



ブルドには、本格的なゲルが設置されたツーリスト・キャンプ場が複数存在します。

大草原のほかに砂漠のあるエリアもあり、モンゴルの大自然を肌で感じることができます。

乗馬や酪農体験をしたり、満天の夜空を楽しんだり、モンゴルでの休日を満喫してみましよう。

アルハンガイ



モンゴル中央部に位置するアルハンガイ県は、全土が海拔1,200～3,600mに及ぶ高原地帯です。

美しい山々や森林、湖沼にも恵まれた美しい土地柄で、モンゴルの人も一生に一度は行ってみたいと憧れる場所でもあります。

ウランバートルからは450kmほど西にあり、国内線のほか長距離バスが運行されています。

陸路を利用した場合、11時間程度の時間を要します。

アルハンガイ - Google マップ



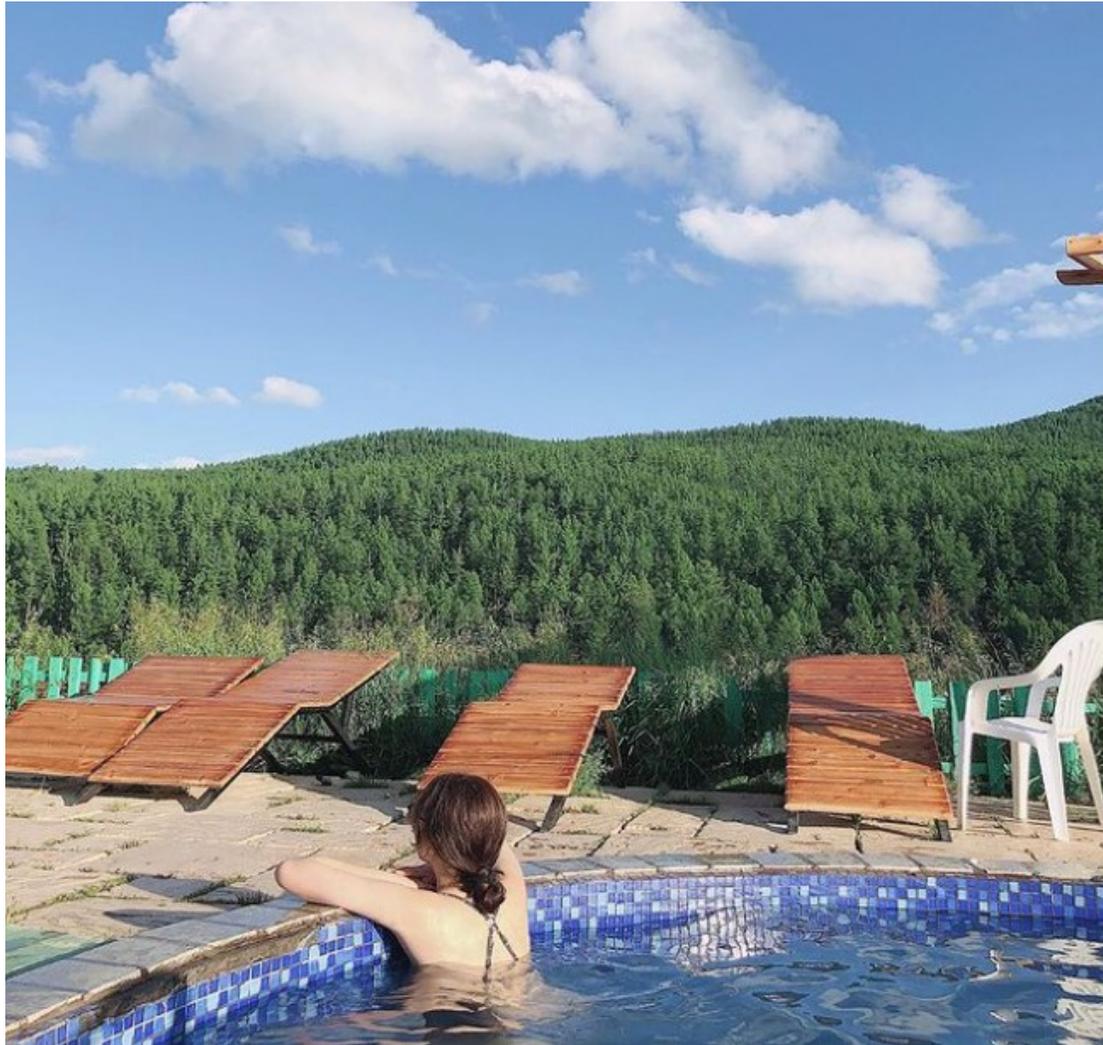
アルハンガイ - Google マップ



Puba - Google マップ



ツェツェルレグ（温泉）



モンゴルにも、とっておきの温泉が存在します。

ツェツェルレグはアルハンガイ県の県都で、古くから文化と商業が栄えた街です。

このツェツェルレグにある「ツェンケル」では、天然温泉が湧く露天風呂が楽しめます。

モンゴル帝国2代皇帝だったオゴタイ・ハーンの隠し湯ともいわれ、

「世界100温泉」のひとつにランクインしています。

源泉は80°C以上と熱めで、天然かけ流し。大草原の中にある露天風呂を満喫できます。

アルハンガイ - Google マップ



ツェツェルレグ（温泉）



基本的に日本の入浴方法と同じですが、水着着用が原則です。異郷の大自然に囲まれての温泉体験は、モンゴル旅行が格段に楽しくなることでしょう

Bulgan Uul - Google マップ



ツェツェルレグ市 - Google マップ



トゥブ

[Zuunmod Rd - Google マップ](#)



トゥブ県は、ウランバートル市をすっぽり囲むような形で存在しています。距離的には「首都圏」となりますが、そのイメージとはほど遠い手つかずの大自然が広がっています。

ウランバートルから日帰り観光が可能な、絶景の観光地をご紹介します。

ホスタイ国立公園



ウランバートルから南西に100km、車で2時間30分程度の場所にある国立公園です。

正式名称は クステインヌルウ国立公園、面積は約5万ヘクタールで、東京ドーム1万個位の広さを誇ります。

草原だけでなく、砂漠や森林、岩山や湿地など多様な自然環境が残されており、非常に多くの動植物が生息しています。

500種類以上の植物、200種類以上の鳥類、400種類以上の昆虫などが暮らし、50種類近い哺乳類にも出会えます。

タルバガン（シベリアマーモット）は、ホスタイのアイドル的な存在で、草原のあちらこちらで動き回る姿は癒されますよ。

ザナバザル美術館 - Google マップ



タビ（モウコノウマ）



ホスタイ国立公園に暮らしている動物で、タビ（モウコノウマ）の存在は欠かせません。

かつてはモンゴルの大草原を中心に、ユーラシア大陸全域に生息していましたが、1960年代を最後に野生種は絶滅してしまいました。

その後、欧米の動物園にいた子孫を逆輸入して繁殖させたこともあり、現在では野生種が300頭以上にまで回復しました。

ホスタイ国立公園は、野生のタビが元気に走り回る姿を観察できます。

ゴビのおすすめ観光スポット



春先に日本上空にも飛んでくる「黄砂」は、厄介なものとして敬遠されることが多いと思います。この黄砂、実は遥か遠いゴビ砂漠からやってきています。

ゴビは、世界で4番目の大きさを誇る砂漠であり、モンゴル国土の30%を占める広大なものです。かつては恐竜が跋扈し、突厥や匈奴といった古代帝国が栄えた地でもあります。

フタコブラクダに代表されるゴビも、最近観光地として注目が高まってきています。

ゴビの砂漠



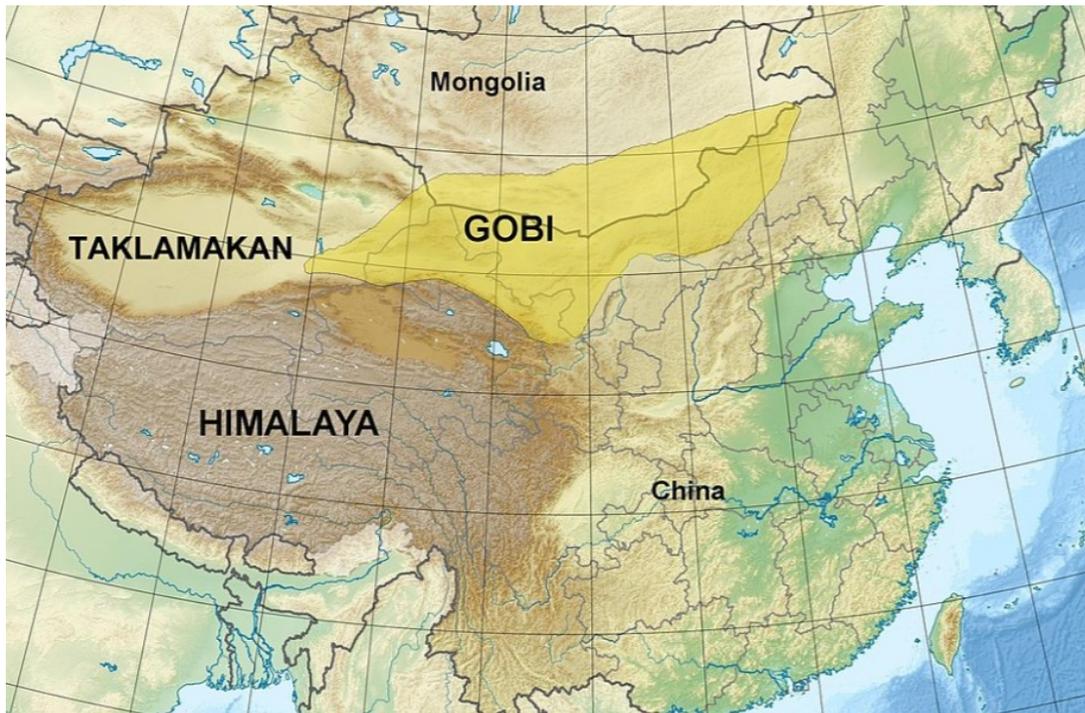
モンゴル南部に位置するゴビは、夏は暑く、冬はマイナス45°C近くまで下がる過酷な環境下にあります。

朝晩の寒暖差も激しく、快適な観光は期待できないかもしれません。

しかし、ここでしか見ることのできない貴重な景観は、そんな過酷な状況を忘れてしまうくらい素晴らしいものです

Gobi Desert - Google マップ

GobiTaklamakanMap - ゴビ砂漠 - Wikipedia



ホンゴル砂丘



ゴビ砂漠の大部分は、まばらな草や低木が生える荒地であり、一般的に連想される砂漠のイメージがありません。

ただ、中心となる南ゴビから**200km**ほど離れると、これぞ砂漠といえるような美しい砂丘に出会えます。

ホンゴル砂丘は、全長**180km**、最大幅**115km**にも及ぶ広大な砂丘で、一面砂に覆われた幻想的な砂漠を体験できます。

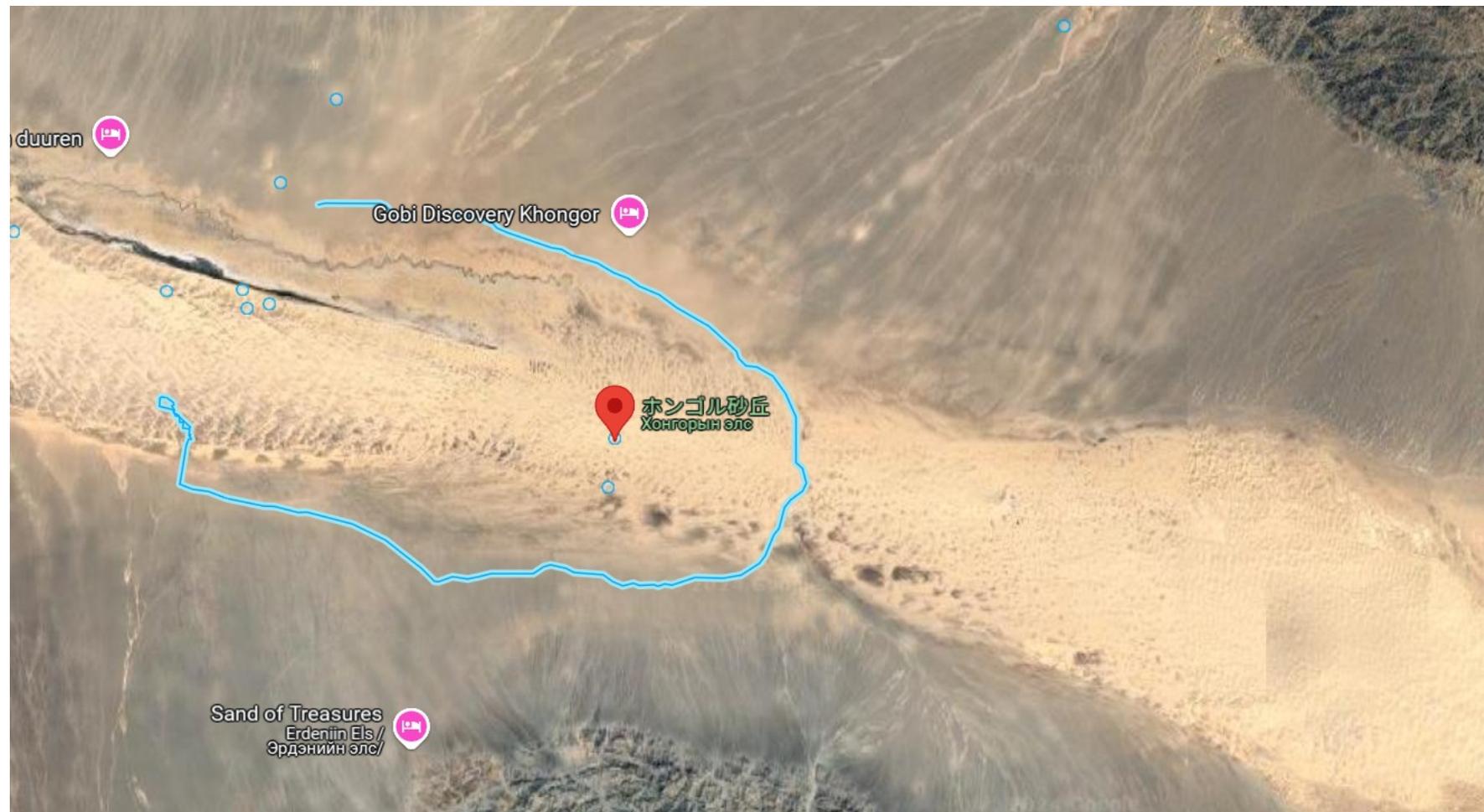
ホンゴル砂丘



見渡す限りの大砂漠で、
童心に帰って砂と戯れたり、
フタコブラクダに
乗ってトレッキングを楽しんだり。

砂紋の美しさも息を呑む
ほどです。

ホンゴル砂丘 - Google マップ



ホンゴル砂丘 - Google マップ



Gobi Gurvan Saikhan National Park - Google マップ





バヤンザグ



グランドキャニオンを連想させる巨大な岩山崖、バヤンザグは別名「炎の崖」と呼ばれています。

夕暮れ時に、夕日で真っ赤に映える光景から名付けられ、この景観の美しさは抜群です。

バヤンザグとはモンゴル語で、「ザグが多い」という意味で、ザグなる低木がたくさん生えていたことから命名されたと言われています。

文字通り岩山の周辺の砂漠は、草や低木に覆われた典型的なゴビの風景となっています。

バヤンザグ



バヤンザグが知られるようになったのは、1923年に米国の探検家ロイ・チャップマン・アンドリュースが、この地で恐竜の卵の化石を発見したことがはじまりです。

当時は恐竜が卵から生まれるということがわかっていませんでした。

バヤンザグ



有名な恐竜・トリケラトプスが発見されたのもバヤンザグであり、その後も多くの恐竜の化石が発見されています。

炎の壁の絶景を楽しむるばかりでなく、ひょっとしたら貴方も恐竜の化石を発見できるかもしれません。

フブスグル



フブスグルはモンゴル最北部、ロシアと国境を接している県です。

モンゴル最大の貯水量を誇る「フブスグル湖」を中心に、豊かな森林と湖水が広がっています。

一般的なモンゴルのイメージとは異なる、風光明媚な山岳の景観を楽しめます。

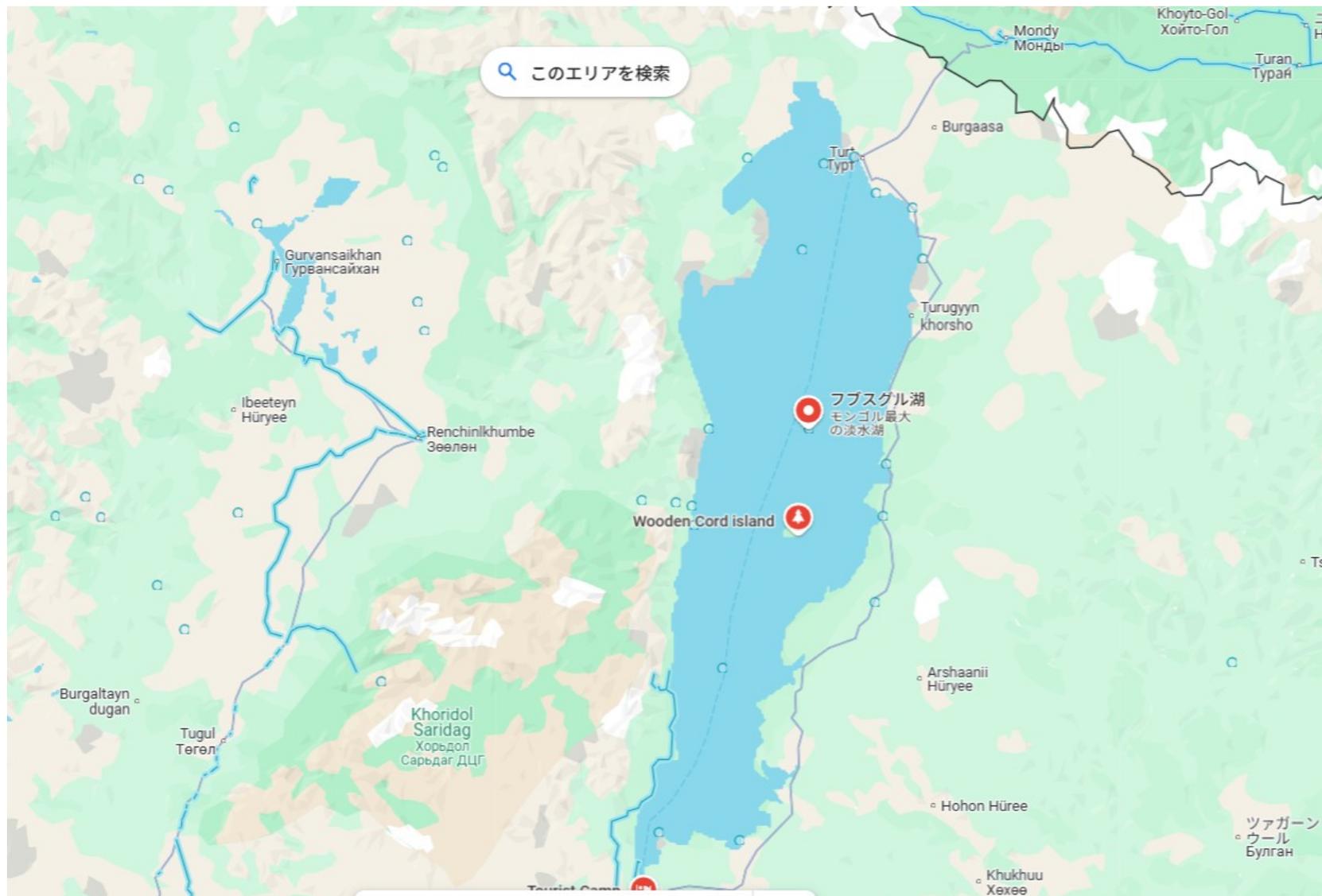
フブスグル湖国立公園



フブスグル湖は標高1,645mの高地にあり、その水深は最も深いところで262m、アジアの淡水湖では最大級の規模を持ちます。

湖水の透明度も抜群で、ロシアのバイカル湖に次いで2番目を誇ります。

フブスグル湖国立公園 - Google マップ



[Khangarid Tsendjav - Google マップ](#)



フブスグル湖国立公園



フブスグル湖国立公園は、フブスグル湖を中心とした自然公園で、そのアルプス的景観から「モンゴルのスイス」として外国人観光客に親しまれています。

この公園に棲んでいる動物たちもまた、トナカイやヒグマ、クロテン、ビーバーなど寒い地域の動物が多くなっています。

また、周辺にはツァータン族という少数民族が暮らしており、トナカイを放牧しながらの生活を営んでいます。

今までご紹介してきたモンゴル各地のスポットとは、全く趣が異なる観光が楽しめます。

フブスグル湖国立公園



遊覧船で湖を周遊したり、乗馬やトレッキングを楽しんだり、様々なアクティビティも充実しています。

ツーリストキャンプも設置されているので、公園に宿泊して大自然を満喫してみるのも楽しいでしょう。

ホブスゴル - Google マップ

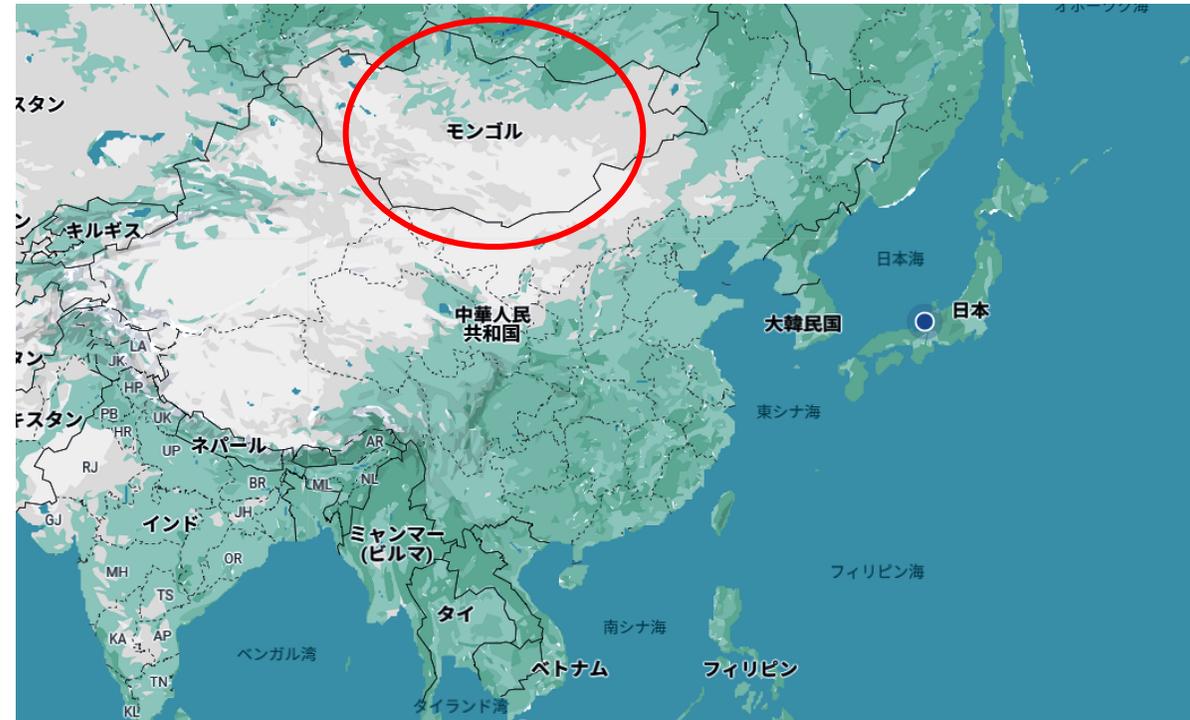


2024/11/20 (水)
インターネット世界旅行

インターネット世界旅行 モンゴル

参考資料

[大草原の国・モンゴルのおすすめ観光スポット18選！知られざる絶景からユニークなアクティビティまで厳選 | TABI CHANNEL](#)



後半 終わり

吉岡 芳夫